GLOBAL MIND

４月９日（月）から１２日（木）までシンガポールの Nan Chiau High School で開催された 2nd Asia - Pacific Young Leaders Convention に参加しました。参加した生徒は、６年１組の原さん、椎山さん、６年２組の河瀬君、髙松君、嶋さん、３年Ｂ組の橋本さんです。中国、台湾、インドネシア、シンガポール、ニュージーランドの代表生と"Embracing Unity, Valuing Diversity"（多様性が尊重される中でも同時に結束することの大切さ）をテーマに様々な活動に取り組みました。

〔１日目〕

開会式では、６カ国の生徒が各々の学校と文化を紹介し、併せて自国が取り組んでいる多様性(diversity)と協調性（unity）を織り交ぜながら１５分間のプレゼンを行いました。聴衆がたくさんいる中での発表で、開智生は少し緊張していたようですが、練習通りに発表することができました。

午後からはシンガポール市内にある切手博物館を訪問し、商業の中心であったシンガポールの歴史を垣間見ることができました。またスパイス植物園でワークショップを行いました。暑い中生徒はたくさん質問し、問題を解いていました。その後、A*STAR （シンガポール科学技術研究庁）を訪問しました。2002 年に設立された科学技術研究や人材育成を推進する機関です。そこで最先端の独自開発品、企業との共同制作試作品を見学し、体験をしてきました。また、研究員の方から講義をしていただきました。

〔２日目〕

６ ケ国の混合チームに分かれてディスカッションが始まりました。６つのサブテーマ（文化、社会、環境、政府、教育、経済）をくじで決め、それを diversity and unity に基づいて各国の事例を交えたプレゼンテーションの準備をしていきます。この日は朝から晩まで缶詰状態で、話し合い、スライド作り、リサーチなどとハードな一日でした。例えば、サブテーマが政府である班では、６カ国の政府が実施している移民政策を紹介しながら、各国の良い点を取り入れ、どのように移民を受け入れるのか、diversity と unity を織り交ぜながら発表しました。１５分間という短い中で発表するので、要約するのに苦労しました。みんな助け合いながら、一つになって仕上げていました。

〔３日目〕

午前中はプレゼンの準備にとりかかり、その後、グループに分かれて、与えられたタスクに取り組みながら市内散策します。シンガポールは多民族国家なので、お寺、教会、ヒンドゥー寺院、イスラム教徒が通うモスクが同じエリアに建てられています。Diversity & Unity を身近に感じることができました。

〔４日目〕

最終日となりました。開智生たちは朝食の間も原稿を見ながら、本番直前までプレゼンの練習をしていました。初日に与えられたテーマでスライドを使って 15 分間プレゼンテーションをしました。緊張の中、見事にやり遂げることができました。達成感に浸りながら、閉会式を迎えました。夕方の Farewell dinner では、浴衣に着替えて、盆踊りを披露しました。最後は肩を組んで、歌を歌い、名残惜しい、なんともさみしい気持ちになりました。

〔代表生徒６名からの後輩に向けてのアドバイス　来年参加したい人はぜひ参考にして下さい。〕

原さんからのアドバイス：たくさんの単語の発音と意味を勉強しておくこと。みんなはフレンドリーで優しいので、間違いは気にせず、たくさん話しかけてください。

椎山さんからのアドバイス：普段日本では、体験しないことばかりで、戸惑うことが多いけれど、わからないことは、みんな優しく教えてくれるので積極的に話しかけてみてください。日本の文化を尋ねられることが多かったので、事前に日本のことを調べることをお勧めします。

河瀬君からのアドバイス：プレゼン時は原稿を見ながらでも、ジェスチャーを入れる方がいいです。外国人と初対面での会話では、まず趣味を話題にするのがお勧めです。また、その国の有名な食べ物の話は多いに盛り上がります。日本のアニメも有名なのでそれを話題にすると話が続きますよ。

髙松君からのアドバイス：学校の授業で英語にしっかり取り組んでおきましょう。それが自身の英語力の基礎となって自分を知らない間に支えてくれます。そして、自分の能力を過小評価しすぎないこと。消極的な自分を変えることで、英語での自己表現に対する向き合い方が大きく変わります。最後は、開智で身につけた英語力と、自分自身の可能性を信じて、世界に踏み込む勇気を持って下さい。You can make it!

嶋さんからのアドバイス：まず自国についてよく知っておくことが国際交流に大事だと思いました。日本について聞かれることが多いし、アジアの子達は私が思っていた以上に日本の文化、例えばアニメや音楽を知っているので、私は仲良くなりたいときに「このアニメ知ってる？」という風に話しかけてみることにしていました。

橋本さんからのアドバイス：自分がわからないことを認めるのは難しいけど、わからないことは積極的に聞いてみるのが大切だと思います。また、普段からニュースを色々な視点で見て、考えておくことで APYLC の場で自分の意見を見つけやすくなります。

皆さん、いかがでしたか。次は来年の４月、インドネシアにて開催されます。また、２０２０年は開智がホスト校になります。It will be your turn!　Good luck.　（文責：坂口典子）